
怖くない話。

日野五十鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怖くない話。

【Nコード】

N8912J

【作者名】

日野五十鈴

【あらすじ】

朝早く起きたAのその後とは。映画鑑賞の約束をしたBの一言とは。そしてCの家の向かいに住む猫は…。怖くない話3部作！

(前書き)

最初に申し上げておきますと、えー、決して怖くはありません。もう本当に。

第一話〈恐怖の味噌汁〉

朝、Aはポツカリと目を覚ました。

早朝から重要な会議があるのだが、緊張のためか予定よりも早く目が覚めてしまったようだ。

身支度を整え、Aはリビングへと行き、キッチンで朝食の準備をしている妻に声をかけた。

「おはよう」

「おはよう、あなた」

この夫婦は新婚で、過去に飛び降り自殺があった曰く付きのマンションに住んでいる。

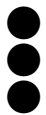
すると嗅覚をくすぐる味噌汁のいい匂いが…。

「何の味噌汁つくってるのー？」

妻はニツコリと答えた。

「今日、魅の味噌汁（恐怖の味噌汁）よ」

キャ————！！



第二話　悪の十字架

Bはこの日、友達と映画を見る約束をしていた。

今シーズン流行りのホラー映画だ。

だが、何故かこの映画を見た同級生は不幸にみまわれている。

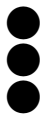
車に跳ねられて大ケガをしたり、家が家事になったり…。

そんな興味本意で映画を見ることになったBだが、待ち合わせ時間より早く映画館に来てしまった。

開演時間を見て、Bはポツリと呟いた。

「なんだ…開くの10時か（悪の十字架）」

キャ――――！！



第三話（魂）

Cの住む家のお向かいさんは、愛猫家で有名だった。

何匹飼っているのかは判然としない。しかし名前が必要な数を飼っていることには間違いなかった。

Cの子供は過去にその家の猫をいじめてから、学校で虐められるようになってしまった。

靴に画ビヨウを入れられたり、陰湿な手紙を机の中に入れられたり……。

いつしかCの子供の心は閉ざされ、引きこもりになってしまった。

そんなある日、お向かいの猫がCの家の屋根に登った。

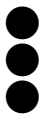
2階にはCの子供の部屋がある。

猫はその部屋の閉ざされた窓に向かって…ニャーと鳴いた。

あまりにもニャーニャーニャーしつこく鳴くので、お向かいさんはたまりかねて言ってやった。

「コラ！ タマ、しー（魂）！」

キャ――――！！



こんなくだらない、ホラーとも呼べないような代物を書いていたHは、椅子に座ったままグリーンと背伸びをした。

と、そのとき首筋に生暖かい風が…。

「？」

Hは不思議に思った。さっきまで暖房器具を使っていたが、今は換気のため窓を開け放ち、逆に寒いはずなのに…？

とそのとき。

「！？」

強い力で手首を捕まれた。

Hが恐る恐る振り返ると…。

「…ひっ…」

…そこには血みどろで長い髪の女が、無感動にHを見下ろしていた…。

ガタッ。

「!?!」

今度は窓の方で不吉な音がする。

…そこには、やはり血みどろの、両眼をカッと見開いた顔が…。

「キャ――――!!」

終

(後書き)

Hのその後は誰も知らない…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8912j/>

怖くない話。

2010年10月21日20時57分発行